

路線跡ウォーキングマップ

西大寺鐵道

歴史的な日 開通式の当日

開通式の当日、町家の戸口には日の丸の国旗を挙げ、式は観音駅で行われた。また観音院では園遊会が開かれ、小学生は旗行列、夜は提灯行列を行って開通の喜びと共に分けあつたのである。

西大寺町とその周辺の人達にとって、汽車は珍しいものでありまた恐ろしいものでもあった。

「何と大きい鉄の車じやなあ、あれがモクモク、黒え煙を吐いて走るううな」

「1月の28日に西大寺から森下の方へ走るんじやうな」

こんな罪のない話が素朴な農民の間でとりかわされていた。

当曰は、寒氣肌を刺すほどであったが、空はよく晴れ、西大寺駅頭には早朝から開通式の盛儀を見んとする草鞋ばきの農民、町家の子弟らしい羽織姿の若者、幅広いリボンをつけた良家の令嬢等がひしめきあつてゐる。その間を背の高い巡査が声高に何か叫びながら佩剣をガチャつかせて忙しそうに人垣を整理していた。

先刻から人々の視線を集めているのは、ヒヨ高い煙突をさわだせている、たつた1両の客車をつないだ列車の姿であった。初めて汽車に乗るらしい農家の老翁が寒そうに、だがそわそわとうれしそうにデッキを踏む。インバネスを風になびかせながら中年の男も客車の中へズイとすすむ。乗客はみんな一斉に客車の窓から顔を出していた。

ついに汽車はモクモクと真黒な煙を吐き始めた。たちまちワーッと歓声があがる。機関車の調子は上々。徐々に、黒光りする鉄の轍がきしみ始めた。

「万歳、万歳、万歳」

汽車は車窓で手を振る人々を乗せて、西へ西へと遠ざかって行った。この日この瞬間こそ、岡山県の交通史上に永遠に残る、感激の一頁だったのである。

(「西大寺鐵道五十二年の歩み」より)



制作・発行 (不許複製)

両備ホールディングス(株)両備経営サポートカンパニー

Tel.086-232-2118 E-mail:keben@ryobi-holdings.jp

URL:htpp://www.ryobi-holdings.jp/

【協力】岡山市立中央公民館／岡山市立東公民館／岡山市立旭東公民館／岡山市立西大寺公民館

©RYOBI HOLDINGS CO., LTD.

西大寺鐵道 年表

西大寺鐵道 年表	
1910 明治43年 7月31日 西大寺觀音院で「西大寺軌道株式会社」創立総会開催	
1911 明治44年 2月23日	本社とその付属建物、車庫の建築に着手
1911 明治44年 5月13日	線路の敷設工事起工
1911 明治44年 5月15日	本社、車庫等の建築竣工
1911 明治44年 12月29日	西大寺—長岡間の運転開始
1912 明治45年 1月19日	長岡—森下間の運転開始の許可が下りる
1912 明治45年 1月28日	西大寺—森下間が全通したので盛大な開通式挙行
▼開業時の駅名	
1912 明治45年 4月29日	観音(西大寺市)／松崎(広谷)／大多羅／岩間(長利)／長岡(財田)／関(大師)／二本松(藤原)／原尾島／森下
1914 大正 3年 7月 1日	専務取締役山口試孝氏死去、松田与三郎氏が後任に就任
1914 大正 3年 7月 1日	鉄道院と連帯運輸をするために駅名を変更
1914 大正 3年 7月 4日	観音を西大寺に、松崎を広谷に、岩間を長利に、長岡を財田に、関を幡多に、二本松を藤原に改名。
1914 大正 3年 7月 4日	軌鉄条令下の運行から、軽便鉄道法下の運行に移行
1914 大正 3年 7月 4日	軌道法では機関車に客車一両しか連結することが出来ないが軽便法になると多数の車両が連結出来る。全国唯一となる3尺ゲージであったことから特例をもつての移行となる。
1914 大正 3年11月 2日	「西大寺鐵道株式会社」に商号変更
1915 大正 4年 5月15日	森下駅構内に後楽園線の起工式挙行
1915 大正 4年 7月29日	入場券発売制度実施(入場券1錢)
1915 大正 4年 8月18日	初代社長岩崎慶氏辞任、松田与三郎氏が社長代理に就任
1915 大正 4年 9月 7日	後楽園線の敷設完了
1915 大正 4年 9月15日	検査を終って、後楽園駅は仮駅のまま営業開始
1915 大正 4年11月 4日	後楽園駅から新築駅に移転し西大寺—後楽園間が竣工
1916 大正 5年10月 7日	鳥坂山の虛空蔵大師へ参拝者が激増、幡多駅を大師と改称
1919 大正 8年 4月16日	松田与三郎氏が2代目社長に就任
1926 大正15年10月25日	株主総会において自動車事業の経営進出を決定
1927 昭和 2年 2月 1日	西大寺鐵道の傍系会社として岡山市街乗合自動車(株)設立
1929 昭和 4年 6月 2日	西大寺鐵道の傍系会社として岡山乗合自動車(株)設立
1931 昭和 6年 7月 9日	西大寺鐵道にガソリンカーが初登場
1931 昭和 6年 9月18日	満州事變起る
1931 昭和 6年11月11日	ガソリンカー(小型)4両増車する
1931 昭和 6年11月11日	蒸気機関車は朝夕のラッシュ時だけ運行、その他は全面的にガソリンカーを走行させた。
合理化に基づくもので、ガソリンカーは20分ごとに発車した。	
1931 昭和 6年11月	機関車使用中止による機関助手不要で人員整理問題が起る
1935 昭和10年10月	松田壮三郎氏専務取締役に就任
1935 昭和10年10月25日	松田与三郎氏が会長に就任
1935 昭和10年11月28日	岡野桂太氏が新社長に就任
1936 昭和11年 5月25日	両備バス株式会社創立(西鉄、下電経営)
1937 昭和12年 1月 1日	内務省の旭川改修工事に伴い、後楽園駅を移転このため、営業キロ11.5が11.4キロと短縮された。
1937 昭和12年 7月 7日	支那事変が勃発した
1939 昭和14年 2月	ガソリンカーに薪瓦斯发生炉を取付け試運転開始
1944 昭和19年 4月27日	ガソリンの消費規制はいよいよ厳しく、このため輸送力が低下し運輸収入は激減、これの防止対策として実施。ときの一工務員であった森国三平は土光機関区主任を助け西鉄独自のものを完成させた。
1944 昭和19年 9月19日	暴風雨で線路敷地全長3キロにわたり浸水、広谷駅舎半潰
1945 昭和20年 8月15日	第二次世界大戦終戦
1946 昭和21年 9月29日	松田基氏、専務取締役に就任
1947 昭和22年11月15日	西大寺—岡山間で、一般乗合旅客運送事業開始
1949 昭和24年 6月	蒸気機関車をスクラップとして売却
1951 昭和26年 6月11日	大型内燃動車100号を小型に設計変更し、機関車に代わって威力を發揮したガソリンカー
1952 昭和27年 2月 5日	両備バス(株)の資本系統が西大寺鐵道一本となる
1953 昭和28年 4月 1日	西大寺町駅を西大寺市駅に改称
1953 昭和28年11月10日	岡山競馬場駅廃止
1955 昭和30年10月 1日	西大寺鐵道株式会社と両備バス株式会社合併
1956 昭和31年10月 1日	原尾島駅新設(元競馬場跡に県営住宅建設のため)
1962 昭和37年 9月 1日	国鉄赤穂線全通
1962 昭和37年 9月 6日	西大寺鐵道線は52年1ヶ月の永い歴史を終る
1962 昭和37年 9月 8日	西大寺市立中学校体育館において閉業式挙行

西大寺鐵道のあゆみ



さよなら列車



けえべん路線跡マップ

半世紀の時を越え、懐かしいあの道を辿る――

